

■実施報告

「金融教育研究発表会（総和中学校）」

【学校の特徴・概要】

古河市立総和中学校は、「創造・責任・大志・勤労」の校訓のもと、生徒の自主性・自立性を育むために、①生徒から自らが学習や生活で課題を見つけ、②自ら考え、③生徒同士が対話をし、④課題を解決して行動しようとする生徒の育成に取り組んでいます。

『挑戦 飛躍 創造～頂点のその先に～』を本年度のスローガンに、一人一人の個性を尊重した教育を行っています。

【金融教育研究発表会（10月31日開催）】

10月31日（水）に金融教育研究発表会を開催し、研究校として2年間（29・30年度）金融教育に取り組んできた成果を発表したほか、1年生および3年生で公開授業を開催しました。また、ダニエル・カール氏による講演会「日本とアメリカの違いから学ぶ賢い消費者のみち」も開催されました。

<参加者>

634名

— 生徒：553名、開催校教員：44名、教育委員会：7名、
他校教員：30名

1. 全体会

金融教育研究校の委嘱を受け、研究主題を「よりよく判断し主体的に行動する態度を育成するための金融教育の在り方—暮らしや社会について深く考えさせ、生き方や価値観を磨かせる学習活動の工夫を通して—」とし、全教科・領域において金融教育の研究に取り組んできました。

具体的には、①本校の金融教育の視点を作成すること、②知識活用型授業を実践するとともに授業実践のポイントの明確化を図ること、③金融教育の視点を明確にした授業を行うこと、の3点を通して研究主題に迫ることを目指し、その結果、金融教育によって生徒の生きる力の向上に繋がりました。

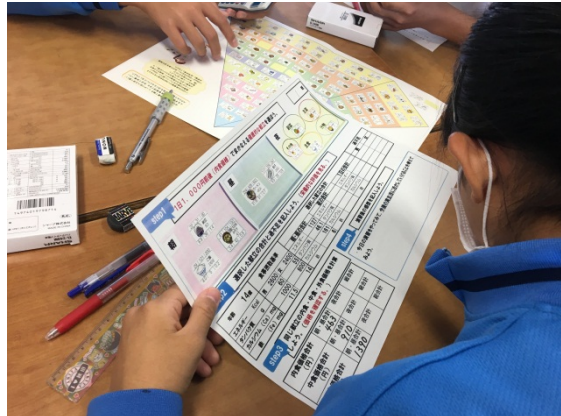
（全体会の模様）



2. 公開授業

- (1) 学級活動「今すぐできる買い物術を知ろう」と題して、栄養バランスや賢い食費の使い方に関心を持ち、予算内で適切な食品を選択するためにはどうしたらよいか、自分なりの考え方を持つという狙いの下で授業が行われました。

栄養教諭がT2として授業に参加し、内食・中食・外食についての基礎知識を説明し、「予算内で栄養バランスのとれた食事をするには、どのように食品を選択するか」を生徒に考えさせました。生徒は、自分の好みだけでなく健康面も考えたメニューを作る活動を通して、生活設計に必要な知識を身に付けるとともに、その知識を活用して自分の暮らしについて考えを巡らせることができました。



(1年5組の授業「今すぐできる買い物術を知ろう」の様相)

- (2) 道徳「生かされている生命に気づく」と題して、日本の食品ロス問題や絵本の登場人物の思いを自分と重ね合せながら考えることを通して、自分たちが食べている食料や生命に対する感謝の念を育む授業が行われました。

生徒は、「食品ロスを無くすことに繋がる食の命を無駄にしない取り組みを話し合う活動」を通して、自分たちが食べている食料や生命に対する感謝の心をもつことで、自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付けることができました。



(3年1組の授業「生かされている生命に気づく」の様相)

- (3) 数学科「関数でお得な選択」と題して、身の回りにおける事象の中に関数を見出し、その変化や対応の特徴を調べ、問題を解決するという狙いの下で授業が行われました。

生徒は、「架空の複数の運送会社が提示した料金プランと荷物の重量の関係から、一番お得な運送会社を選択する活動」を通して、限られた予算の下で、より良い生活を気付く意義を理解して実践する技能と態度を身に付けることができました。



(3年2組の授業「関数でお得な選択」の様)

- (4) 美術科「わたしたちの美術展」と題して、オークションを疑似体験し、そこで得た商品を用いた企画展を発表するという狙いの下での授業が行われました。

生徒は、「様々な絵画を模擬紙幣を使って競り落とすオークションを体験する活動」を通して、お金の価値の重さを理解するとともに、自分の職業選択を主体的に考えることができました。



(3年5組の授業「わたしたちの美術展」の様)

- (5) 技術・家庭科(家庭分野)「消費者としての自覚をもとう」と題して、自分や家族の消費生活を振り返るとともに、契約について理解するという狙いの下での授業が行われました。

生徒は、「自らの消費生活を考えること」を通して、自立した消費者として行動するための基礎知識と態度を身に付けることができました。



(3年6組の授業「消費者としての自覚をもとう」の様)

3. 講演会

ダニエル・カール氏から、「日本とアメリカの違いから学ぶ賢い消費者のみち」と題する講演が行われました。

講演では、講師本人の体験談から、日本とアメリカの子どもの金銭感覚の違いを説明して頂きました。その中で、アメリカの子どもたちは、『幼いころから金銭を受け取る際にはその対価として、ある種の「労働」をすることが必要である』ことを繰り返して生徒に伝えていました。さらに、高校生になる前の段階で『契約についての感覚も身に付けられるように育てられている』ということについて、ユーモアを交えて熱く語られました。

参加者からは、大きな笑いだけでなく、講師が体験してきたことに対する驚きや、これからの日本に必要な知識を教授して頂いたことに対して、深くうなずいている様子が窺えました。

その後、「この講演会で得た知識をこれからの生活に生かしていきます」という生徒会長からのお礼の言葉に、講師も大きくうなずき、固い握手を取り交わしました。



(講演「日本とアメリカの違いから学ぶ賢い消費者のみち」の様)

4. 開催日プログラム

13:00～13:45 開会行事

・主催者挨拶

茨城県金融広報委員会副会長 吉田 豊
古河市立総和中学校校長 町田 裕行

・全体会

「よりよく判断し主体的に行動する態度を
育成するための金融教育の在り方」
－暮らしや社会について深く考えさせ、生き方や
価値観を磨かせる学習活動の工夫を通して－
発表者：古河市立総和中学校教諭 小島 達矢

13 : 55～14 : 45 公開授業

- (1)「今すぐできる買い物術を知ろう」
(1年5組 学級活動)
- (2)「生かされている生命に気づく」
(3年1組 道徳科)
- (3)「関数でお得な選択」 (3年2組 数学科)
- (4)「わたしたちの美術展」 (3年5組 美術科)
- (5)「消費者としての自覚をもとう」
(3年6組 技術・家庭科)

15 : 00～16 : 00 講演「日本とアメリカの違いから学ぶ賢い消費者のみち」
講師：ダニエル・カール氏

16 : 00～16 : 10 閉会行事
・生徒代表 講師へのお礼の言葉
生徒会長 富安 咲紀

以 上